

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	伝染可能期間	感染経路	流行期	備考
インフルエンザ	解熱した後2日を経過するまで	突然の高熱や強い頭痛、 全身倦怠感、 筋肉や関節の痛み、 食欲不振。 咽頭痛、せき、くしゃみ、 鼻水、嘔吐、下痢、 腹痛がある。	1～2日	3～4日	鼻腔、咽頭、気道粘膜 の分泌物から飛沫感染。 ウイルスで汚染されている 手指から感染することもある。	冬	伝染力が強い。 ※予防接種あり。
百日ぜき	特有なせきが消え、 伝染の恐れがないと認められるまで。	最初がかぜのような軽いせきで、 くしゃみや鼻水が出る。 発病後1～2週間を過ぎると せきが激しくなる。	1～2週間	発病後28日。	飛沫感染。せきやくしゃみで 菌が広がる。	冬～ 春先が一定 ではない。	※予防接種あり。
麻疹 (はしか)	解熱した後3日を経過するまで。	最初は発熱、せき、鼻水 目やになどかぜのような症状。 発熱後4日目より皮膚に発疹が現れる。 ほおの内側に白い斑点(コプリック斑) ができる。	10～12日	発疹の出る5日前 から出た後5日間。	飛沫感染。	春～夏	※予防接種あり。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺のはれがひくまで。 医師の判断による。	37～38℃の発熱があり、 両側のあごの後ろ(耳下腺)が大きく はれて痛む。 食欲不振でえん下が困難に。	14～24日	発病前7日から 発病後9日。	飛沫感染。	春～夏	合併症として 髄膜炎のおそれがある。 ※予防接種あり。
風疹 (三日ばしか)	発疹が消えるまで。	はしかに似たピンク色の発疹が 顔、首、おなかに始り、 やがて耳の後ろや首のリンパ腺が はれる。 目が充血し、のどが赤くなり、 せきができる。	14～21日	発疹の出る7日前 から出た後の7日間	飛沫感染。		三日目ぐらいをピークとして 発疹が消えるので「三日ばしか」 とも呼ばれる。 ※予防接種あり。
水痘 (水ぼうそう)	発疹がすべてかさぶたになるまで。	微熱が出て、全身に発疹ができる。 赤い斑点で中心に水ぶくれができ、 かゆみがある。 発疹は2～3日がピークで その後乾いて黒いかさぶたになる。	14～21日	発疹の出る1日前から 出た後7日間。	飛沫感染だが膿、水疱中に ウイルスがいるため 接触感染も。		伝染力が強い。 ※予防接種あり。
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱、咽頭炎、結膜炎の症状が 消えた後、2日を経過するまで。	39℃前後の高熱が4～5日続く。 のどの痛み、せき、目やにや目の充血 がある。 頭痛、下痢を伴うこともある。	5～7日	発病後2～3週間。	飛沫感染。 かぜのひとつでプールを介して 感染することもある。	夏	
突発性発疹	主に症状が消失し、主治医が登園して 差支えないと認めるとき。	高熱後、3日後に全身に発疹。	約10日間。				
ヘルペス性菌 肉口内炎 (単純ヘルペス感染症)	症状が改善し、元気があれば登園可能。	口内炎。	2～14日				
流行性角結膜炎 (はやり目)	医師が伝染の恐れがないと 認めるまで。	伝染性の角膜炎と結膜炎が合併する 目の伝染病。白目が赤く充血する。 目やにや涙が出る。	5～7日	発病後2～3週間。	プールの水、手指、タオルなどを 介しての接触感染でプールで 感染するおとが多い。		伝染力が強い。
急性出血性結膜炎 (アボ口病)	症状が治まるまで。	白目が赤く充血する。	1～2日	症状が出る1日前～ 発症後2日。	接触感染。		
腸管出血性 大腸菌感染症 (O-157)	下痢のある期間。	下痢、嘔吐、腹痛。	4日～8日	下痢のある期間。	経口感染。		

乳幼児嘔吐下痢症 (ロタウイルスによるもの)	症状が消失し、主治医が登園許可して 差支えないと認めたとき。	発熱、嘔吐、下痢。	不明	不明			
感染性胃腸炎	下痢をしている間。	下痢、嘔吐。	1～2日	症状が出てから4日間。	経口感染。	主に冬	原因ウイルスとしてロタウイルスや ノロウイルスがある。
溶連菌感染症	医師の判断による。 抗生剤治療を行えば24時間以内に 他人への感染を防ぎ、病原菌を抑制できる。 感染の危険がなくなったことを医師に 確認する。	溶連菌という細菌がのどに感染し、 のどの痛み、38～39℃の高熱、嘔吐、 腹痛、頭痛などが起きる。 体や手足に発疹が出て、舌はイチゴの ようにブツブツになる。	2～7日	主症状が消え、感染の 危険がなくなるまで。	飛沫感染	秋～冬	
手足口病	医師の判断による。	夏かぜのひとつ。初期は指、手のひら、 足裏、唇やほおの内側、舌に白い 水疱の発疹はでるが熱は高くない。 発疹がおしりやひざに出ることもある。 水疱が破れて潰瘍となり、2～3日で 炎症がおさまる。	3～6日	水疱疹が消えるまで。	飛沫感染。 排泄された便から感染すること もある。	初夏～秋	
伝染性紅斑 (リンゴ病)	医師の判断をおおぐようにする。	ほおがリンゴのように丸く、赤くなる。 発疹がおしりや太もものあたりにもでき、 レース状や網状に見える発疹部分は ほてり、痛み、かゆみがある場合も。	1～2週間	主要症状が消えるまで。	飛沫感染。		
ヘルパンギーナ	医師の判断による。	夏かぜの一種。39℃前後の熱が2、3日 続き、のどの奥に小さな水疱ができるため 食欲が落ち、吐くこともある。 2、3日で水疱がつぶれて痛みが増し、 つばを飲むのも痛い。 よだれも出る。	2～4日	発病前2日～約3週間。	経口、飛沫感染。	夏	
伝染性膿痂疹 (とびひ)	範囲が広い場合は包帯などで覆うとよいが、 医師の判断をおおぐようにする。	透明な水疱ができ、やがて白くにごる。 水疱は破れやすくてかゆみがあるため、 かきむしると菌がうつる。	2～10日	化膿した部分が治るまで。	接触感染。虫刺されやすり傷に 菌が感染しておこる皮膚病。 かさぶたにも感染性が残る。	夏	タオルの共用をやめ、石けんを つけていてねいに手洗いすること で予防できる。
マイコプラズマ肺炎	症状が改善すれば出席停止の必要は ないが、医師の判断をおおぐようにする。	発熱、せき。	1～2日	症状がでる1週間前～ 症状が出て1か月。	飛沫感染。		排菌は長期にわたる。
結核	伝染の恐れがなくなるまで。	せき。家族に結核の患者がいるときは疑う。		症状のある間。	飛沫感染。		※予防接種あり。